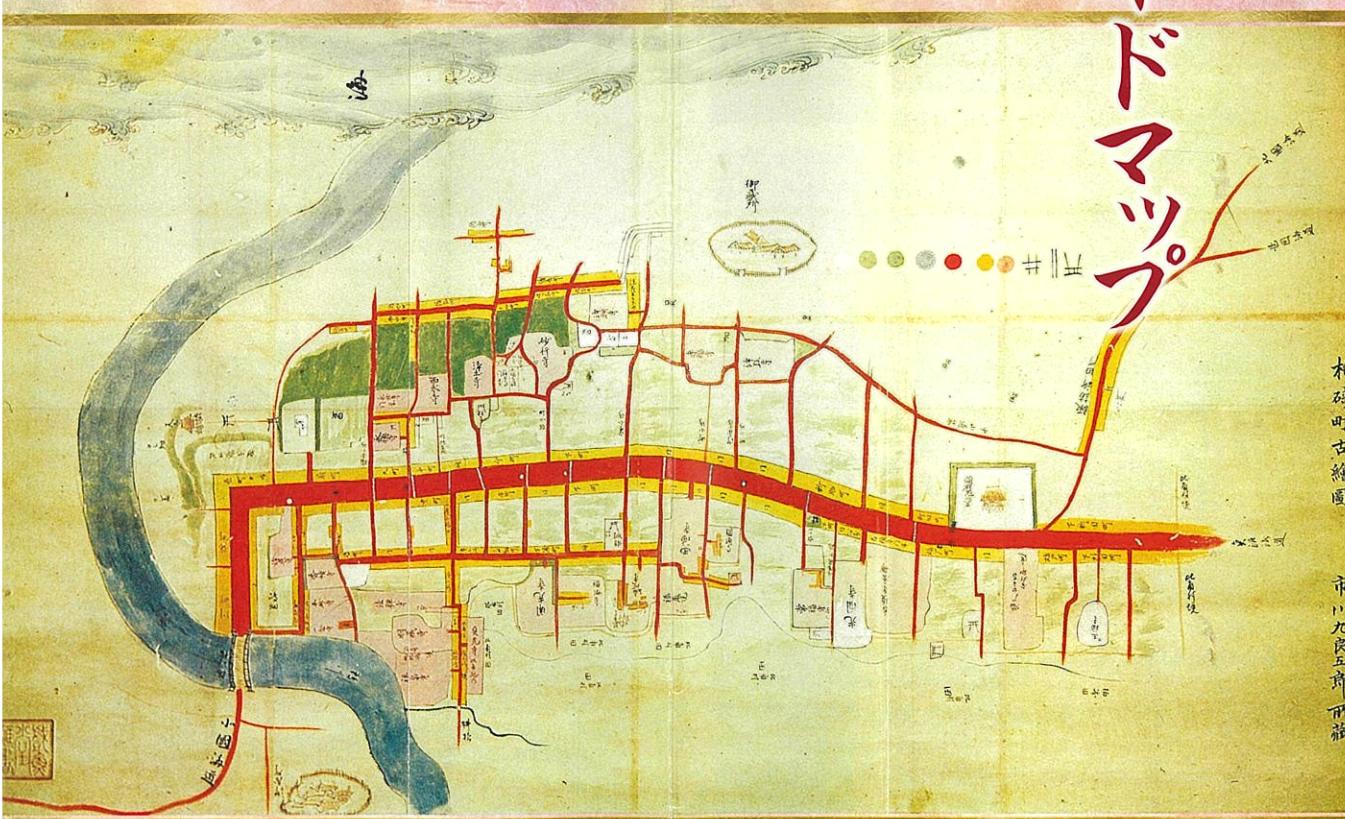


かしわざき

街なか小路ガイドマップ

正誤表	
誤	正
⑩かしわの大樹	⑩旧船着場付近 ここには「かしわの大樹」を説明した碑があり、実際の大樹はレンガ坂(中浜1)付近にあったと伝えられています。
⑯諏訪小路	⑯諏訪小路

マップの一部に誤りがございましたので、訂正してお詫び申し上げます。なお、このほかお気づきの点などありましたら、お聞かせください。より良いものとなるよう、努めてまいります。



平成24年3月発行

発行：柏崎市

編集：街なか史跡ガイド推進実行委員会
中央地区コミュニティ振興協議会
(柏崎市東港町5-55 Tel 21-5711)
産業振興部 観光交流課
総合企画部 文化振興課

資料出典・提供：柏崎市立図書館

※無断転載・複製を禁じます

柏崎市指定文化財「柏崎古絵図」

西側小路MAP



東側小路MAP



貞心尼歌碑めぐり

柏崎駅から日本海へ向かう駅前商店街のは貞心尼の歌碑が12基設置されている。石碑には解説板が付いていて歌を詠んだ情景を思うことができる。



MAP M a-6

近辺小路

⑩御蔵小路

⑫藤沢小路



たくはつていしんにぞう
托鉢貞心尼像

貞心尼



寛政10(1798)に長岡藩士の二女として生まれる。幼き頃の思い出の地、柏崎の閻王寺で眠龍尼と心龍尼姉妹のもとに尼僧生活に入る。

文政10年貞心尼30歳のときに良寛を訪れ、その後も交流が続いた。

貞心尼は44歳から54歳まで「釈迦堂」に住んでいたが柏崎大火に遭い、この堂を焼失してしまう。その後75歳で亡くなるまで「不求庵」で暮らした。



かしわの大樹
MAP D d-3

近辺小路

②ごぼう小路 ④遊行小路



かしわざきかつなが
柏崎勝長邸跡
(香積寺)
MAP C d-2

市指定文化財：昭和48年8月1日指定

鵜川の河口から少し上流のあたりに漁師の船着場があり、そこから見える向こう岸になんご沢(レンガ坂)、その頂上付近には大きなかしわの木があったという。これが遠く沖を漕ぎ行く漁師の目印となり、いつからか「柏の崎」と呼ぶようになった。そこから「柏崎」と名づけられた。

室町時代に榎並左衛門五郎が作り、その後世阿弥が改作して完成した狂女の謡曲「柏崎」の中に登場する柏崎勝長の館跡が香積寺にあり、柏崎文化発祥の源として古くから旅愁的になっている。

柏崎最初の長と伝えられる柏崎勝長公の邸宅は、伝説によると鵜川の柏の大樹の東北にあり、没後、遺言により菩提寺である香積寺に寄進されたといだ。

小路周辺の史跡と昔の風景



いくた よろず
生田萬の墓碑
MAP ⑩ a-5
近辺小路
⑯金蔵小路 ⑰宮川小路

市指定文化財：昭和48年8月1日指定

生田萬は上州館林の藩士で、天保7年（1836）柏崎の山田小路に桜園塾を開き和学を教えた。

天保8年、連年の飢饉のため米の値段は高騰し、悪徳商人や役人の無策に腹を立て、同志6人と柏崎陣屋に斬り込んだが、敗れて海岸で自害した。



ふく ごん いん
福厳院
MAP ⑪ c-5
近辺小路
⑮山田小路
㉑星野小路
一階本堂の天井絵

大正7年に建てられた曹洞宗福厳院は平成19年の中越地震で全壊となったが、平成22年夏に再建し復興を遂げた。

本堂を飾る天井絵は檀家に加えて一般市民から描き手を募り、計86枚の天井絵が飾られている。

弘法大師の作とされている「延命子安地蔵尊」があり、安産のご利益がある秘仏で住職一代一回のご開帳となっている。



じょうふく じ
常福寺
MAP ⑫ b-6
近辺小路
㉒權現小路

常福寺には、その末寺である釈迦堂にあった「良寛図」（柏崎市指定文化財）が保管されている。



しゃ か どう
釈迦堂跡
MAP ⑬ a-7
近辺小路
㉒權現小路
㉕茶毘小路
天保3年（1832）創建、加藤与市母がお堂を建てる。貞心尼は良寛の没後、ここにあった釈迦堂に住み、良寛の歌の整理をしていたといわれている。



旧本町7丁目通り（大正期）

東本町2丁目から東本町3丁目の様子



ふるさと人物館
MAP ⑭ a-5
近辺小路
⑯金蔵小路
⑰宮川小路
⑲御蔵小路

柏崎・刈羽地域の産業や文化の礎を築いた先人110人の事績・著書・遺品・その他資料を展示している。

- ①産業・経済の礎を築いた人々
- ②社会の発展に尽くした人々
- ③学術・教育・スポーツに生きた人々
- ④芸術・文化に生きた人々
- ⑤幕末の姿



さん がい ぶし
三階節（専福寺）
MAP ⑮ l-5
近辺小路
⑯宮川小路
⑰御蔵小路

全国に知られている三階節は、十代將軍徳川家治の時代に盆踊り唄として流行した。

専福寺三代目のお坊さん「しげさ」の法話は大変うまく、近くの人々が説教のありがたさを讃えたのが始まりといわれている。その唄として、

しげさ しげさと恋にする
しげさ しげさの御勧化
山坂越えてもまいりたや
が挙げられている。



えん ま どう
閻魔堂 MAP ⑯ a-8
近辺小路
㉑宮小路 ㉒伝助小路
市指定文化財
昭和48年8月1日指定



現在地は町の東にあった「木戸」の門外で、旅人や浮浪者の宿に利用されたといわれている。

現在のお堂は、明治29年（1896）に4代目篠田宗吉によって建てられた。

6月14日～16日に縁日が開かれている。（えんま市）



えんま市のにぎわい（大正初期）



旧8丁目通り（大正初期）
左手前は尚文館書店



きょうはくえん
喬柏園
(旧柏崎公会堂)
MAP ⑯ A c-2
近辺小路
①天王小路
②ごぼう小路
③牢小路

大正10年（1921）、シンガポールで越後屋を経営して成功した高橋忠平が老後住むために建てた住宅である。

白亜の殿堂と呼ぶにふさわしい鉄筋コンクリート造りで、当時の柏崎には珍しいものであった。

国登録有形文化財：平成19年7月31日登録



よう とく じ
永徳寺
MAP ⑯ E c-2
近辺小路
⑥たや小路
⑥なまね小路
⑦長井小路
永徳寺扁額
『永徳寺扁額』柏崎市文化財：昭和61年9月1日指定

今から600年前の永徳年間の開山であり、柏崎きっての古いお寺である。また、松平定信の筆による寺額があり、寛政12年松平定信はその著集古十種の中で、小野道風朝臣の真蹟として紹介している。



ほし の とう べ え
星野藤兵衛
の墓（妙行寺）
MAP ⑯ G a-4
近辺小路
㉗住吉小路
㉘納屋町小路
㉙御米小路
『間光寺梵鐘』柏崎市文化財：昭和56年10月15日指定

豪商で、勤皇の士といわれた星野藤兵衛は、北陸戊辰戦争の際、新政府軍に働きかけ、柏崎を戦火から救うため尽力した。

鯨波戦争後、新政府軍に働きかけ、妙行寺に本陣を置いた。

妙行寺には、藤兵衛をはじめ加賀藩士の墓や駐屯兵の落書きが本堂に残されている。



旧本町3丁目通り（大正期）



右：いずみ食堂、左：柏崎郵便局



ねまり地蔵
MAP ⑯ B c-2
近辺小路
④遊行小路
⑤たや小路
⑥なまね小路
⑦長井小路
市指定文化財：昭和48年8月1日指定

延命地蔵菩薩で高さ184cmの豪快な造りで「火除け地蔵」の別名がある。長年の飛砂で足元が「根埋り」状態、趺座を組む様子から「ねまり」地蔵という。

たち じ そう
立地蔵
MAP ⑯ F c-2
近辺小路
④遊行小路
⑤たや小路
⑥なまね小路
⑦住吉小路
市指定文化財：昭和48年8月1日指定



西本町2丁目から1丁目方面の町並
西本町2丁目付近の様子



もんこう じ
聞光寺
MAP ⑯ H c-4
近辺小路
㉔土粉小路
㉖諦訪小路
『間光寺梵鐘』柏崎市文化財：昭和56年10月15日指定

聞光寺の鐘には、前白河藩主の松平定信（樂翁公）の直筆からとりいれられた『大無量寿經下卷』の一節が刻まれている。

へんしょう じ
遍照寺
MAP ⑯ I c-4
近辺小路
㉖諦訪小路
『文殊師利問菩薩誓經』柏崎市文化財：昭和48年12月1日指定



この経は、紺紙に金銀文字にて交互に書きわけたもので、通称、中尊寺經といわれるものである。寺伝はないが、裏に十九半あるのは、紙数を示し、表紙及び見返しは金泥書、特に見事な巻留金具を現存し、平安時代の藤原清衡経といわれているものの一環かと考えられる。

1 天王小路



天王小路は、西本町3丁目の西洋軒の角を入り、つき当たって左に折れる道である。八坂神社の前身である天王社に通じる道であったためこの名がついた。

2 ごぼう小路



ごぼう小路は、喬柏園の向かいから鵜川にかかる水道橋に向かう。かつてこのあたりは五坊町、御坊町といわれていたため、この名がついた。

3 犀小路



犀小路は、「ろうや小路」ともいい、本町通りの喬柏園西側を旧納屋町に向かう道である。かつてこの奥に犀獄があり、そこに通じる道であったためこの名がついた。

4 遊行小路



遊行小路は香積寺、本妙寺の前を通り、一念寺に向かう道をいう。かつて遊行上人がこの道を通ったため、この名がついた。

5 たや小路



たや小路は、本町通りから西港町に向かう道で、消防署西本町分遣所前の通りである。かつては御旅屋が置かれ、それに通じる道であったため、この名がついた。

6 なまね小路



なまね小路は、本町通りから高木医院に至る道である。かつてこの小路に、なまねというあざなで呼ばれる人物が住んでいたため、この名がついた。

7 長井小路



長井小路は、本町通りの立地蔵のむかい、西本町2丁目にある道である。本陣長井家があつたので、この名がついた。

8 広小路



広小路は、国道352号の明藏寺付近から旧魚市場に至るまでの道をいう。柏崎で最も早く市・店の開けた所である。「広小路」と名はついているが、かつてはあまり広くなかったという。

9 住吉小路



住吉小路は本町通りの石井神社の角から西港町に向かう道を言った。石井神社は寛永11(1634)年に改称するまで住吉大明神と呼ばれていたことからこの名がついた。

10 御家流小路



御家流小路は、西本町2丁目から旭町に向かう小路をいう。天保の初め頃に徳原泰輔といふ御家流の師匠がこの小路に住んだため、この名がついた。

◀谷折にすると全体のマップがご覧になります

11 納屋町小路（郵便局小路）



納屋町小路は、西本町郵便局の角から西港町と東港町へ通じる道をいう。かつては納屋町といい、そこに通じる道であったためこの名がついた。

16 諏訪小路（けんどん屋小路）



諏訪小路は、大光銀行の角を旧市道64号に向かう道をいう。この奥に柏崎神社の前身である諏訪社が建てられたため、この名がついた。後に、小路の入口に「けんどん屋」という店舗ができるので、別名を「けんどん屋小路」ともいった。

～砂丘こそ母なる大地～

柏崎は鵜川、鯖石川の二つの流れの狭間、砂丘の上に生まれました。

夕日の美しい日本海を臨み、米山、黒姫、八石山の山並みに抱かれ、柏の木が茂る原野だった砂丘こそ柏崎の母なる大地の由縁です。

鵜川河口付近から始まったまちづくりは、徐々に東へと進み、江戸時代には、北国街道の宿場町、港町として栄え、縮布商が活躍する商人のまちとして発展してきました。

商人でぎわう街道の外側には住宅が、さらに多くの寺院が取り囲む形態をなし、街道を縦横に結ぶ「小路」が、今もなお、その歴史を物語っています。

このマップで紹介する小路は、江戸時代に製作された「柏崎町古絵図(マップ表紙)」にも記されています。古から今につながる「街なか小路」には、歩いてこそ発見できる、そこだけの魅力や感動がつまっています。

皆さんも「街なか小路ガイドマップ」を手に、柏崎町の温故知新の旅に、どうぞおかけください。

まち歩きをもっと楽しみたい方へ

街なか史跡ガイドが案内できます。



柏崎の史跡や文化財、小路を解説付きで楽しむことができます。コースや時間は自由に設定できます。

料 金 無料　途中、昼食をはさむ場合はガイドの昼食代の負担をお願いいたします。
【事務局】柏崎市産業振興部観光交流課
柏崎市中央町5-50

申込み　1週間前までに要予約
TEL: 0257-21-2334

***貞心尼史跡ガイドもいます。**
貞心尼ゆかりの地をガイドの解説とともに巡りたい方も、是非お気軽にお問い合わせください。



17 宮川小路



宮川小路は、本町通りからふるさと人物館までを通る道である。この地には新田開拓に尽力した宮川四郎兵衛さんの屋敷地があったため、この名がついた。

18 山田小路



山田小路は現在の通称ニコニコ通りの一部である。かつては細く狭い道であったが、明治30年に拡張され、柏崎の目抜き通りとなった。名前の由来は不明である。

19 御蔵小路



御蔵小路は別名「朝倉小路」といい、本町通りから浄敬寺の脇を通る坂である。この先に蔵がある道であったため、この名がついた。

20 星野小路



星野小路は柏崎信用金庫の角から旧市道64号へ向かう道である。かつてこの場所に星野藤兵衛の屋敷があったため、この名がついた。

21 荒木小路



荒木小路は、本町通りのミセスハウスカタヤマの角を旧市道64号に向かう道である。かつて高野屋荒木という人物の住居があったため、この名がついた。

22 権現小路



権現小路は、現在の東本町1丁目と2丁目の境、越後タイムズ社前の坂道である。かつてこの小路に権現社があったため、この名がついた。

23 藤沢小路



藤沢小路は、現在のフォンジェストリート棟の道である。かつて火葬場へ行くための道であったため、焼場小路と呼ばれていたが、火葬場の移動後、藤沢という人がこの小路に住んだため、この名がついた。

24 宮小路（座頭小路）



宮小路は、東本町郵便局の角から東北電力に向かう道をいう。この小路の奥に旧闇魔町の鎮守諏訪社があったため、この名がついた。

25 茶毘小路



茶毘小路は、本町通りから糸迦堂跡に至るまでの道をいう。茶毘とは火葬の意。火葬場へ行くための道であったことから、この名がついた。

26 伝助小路



伝助小路は、本町通りから東本町3丁目の間を通っている小路である。かつてこの小路に真貝伝助の屋敷があったため、この名がついた。